

令和5年度 第2回 食育推進会議 議事録

開催日時	令和5年10月26日(木曜日)午後3時30分～
開催場所	二日町第五仮庁舎 (オンワード樫山仙台ビル)10階ホール
名簿	委員 白川愛子、神田あずさ、小野恵、小山田陽奈、片倉成子、加藤房子、木村由希、佐藤将人、武田芳典、二階堂善一、平田政嗣、大和一美、加藤邦治、白山幸喜、柳津英敬 【欠席委員:柴崎崇、古林史子、福田洋之】 (敬称略)
事務局	川口健康福祉局次長(保健衛生部担当)、小椋保健衛生部長、佐野健康政策課長、飯間健康政策課主幹兼健康増進係長(司会進行)、オブザーバー 筒井幸子環境局理事(脱炭素都市推進担当)

発言者等	発言内容
進行	<1.開会> 本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 はじめに、本会議を代表いたしまして、白川会長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。白川会長、よろしくお願ひいたします。
白川会長	<会長挨拶> 宮城大学の白川でございます。 本日はどうぞよろしくお願ひいたします。着座にて失礼いたします。 改めまして、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。 今回は仙台市食育推進計画第3期中間案につきまして、皆様から様々なご意見をいただきますが、まずは第2期計画の最終評価に引き続き、中間案の取りまとめにご尽力をいただきました事務局の皆様、ご関係の皆様にご心より感謝申し上げます。 第3期中間案のコンセプトは「未来へつなげる食育」となっております。 国の第4次食育推進基本計画では、コロナ禍による新しい日常やデジタル化に対応した食育、さらにはSDGs 持続可能な食の視点も加わることで、食育は新たな広がりを見せております。食を取り巻く環境を含めた問題、例えば、食料輸入は昨今の不安定な世界情勢の影響を受け、また食材生産は地球温暖化の影響を大きく受けています。今や庶民の魚ではなくなりつつあるさんまの漁獲量の減少も地球温暖化に関連していると言われております。 そのような食を取り巻く問題や食育の変化を、「未来へつなげる食育」のコンセプトは、ふさわしい形で反映しております。 このような食への多様な視点や関心、配慮を持ちながら、基本目標にもごさいますように、私たち一人ひとりが、食育の基本となる家庭において食事を楽しみながら、望ましい食生活習慣を身につけ、さらに改善する取り組みを実践していくこと、それを保育所、学校、関係団体、行政が協働で連携してサポートしながら取り組むことで、健康で幸せな未来を次世代につなげていくこととなります。そのための推進する具体的な取り組みも掲載されておりますので、これらを参考に一人ひとりの多様なライフスタイルに合わせた形で、実践していただくことが望まれます。 本日は、第3期中間案につきまして皆様から様々なご意見を頂戴し、情報共有を図って参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
進行	<委員紹介> ありがとうございました。 続きまして、本日ご出席いただいている委員等の皆様、また事務局側の本市職員につきましては、お手元の名簿をご覧くださいませようお願ひいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。
進行	<会議成立報告> ここで議事に先立ちまして、本日の会議の成立についてお知らせいたします。

	<p>本日は、柴崎委員、古林委員、福田委員がご欠席、神田委員が遅れてご出席する旨のご連絡を頂いております。</p> <p>本日は15名の委員にご出席いただいております、過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>また本日、オブザーバーとしてご出席いただいております、仙台市環境局の筒井理事につきましては、所用により途中退席いたしますことを申し添えます。</p>
進行	<p>続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。お手元の次第をご覧ください。</p> <p>事前配布としまして、資料1・仙台市食育推進計画(第3期)中間案、資料2・仙台市食育推進計画(第3期)策定に係るスケジュール、こちらの資料2につきましては、本日差し替えをお配りしておりますので、差し替えの方をご覧くださいようをお願いいたします。</p> <p>次に、当日配付としまして、資料3・仙台市食育推進計画(第3期)中間案概要版、別紙1・仙台市食育推進計画(第3期)中間案に係る意見シート、その他次第には記載しておりませんが、仙台市食育推進計画(第3期)中間案【正誤表】以上となりますが、不足の資料はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、これからの進行につきましては、会長をお願いいたします。白川会長、よろしくをお願いいたします。</p>
白川会長	<p>それでは、委員の皆様よろしくをお願いいたします。</p> <p>議事に移ります前に、まず議事録署名につきましてこちらから指名させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の議事録署名につきましては加藤房子委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
加藤房子委員	はい、よろしくをお願いいたします。
白川会長	<p><2. 議事></p> <p>それでは議事に移ります。</p> <p>議事(1) 仙台市食育推進計画(第3期)中間案についてでございます。前回の会議では、骨子案についてご協議いただきましたが、その後事務局で会議委員の所属団体における取り組みや、仙台市事業の取りまとめをし、また庁内関係課への確認等を通し、今回中間案として作成していただきました。本日の協議では、中間案につきまして委員の皆様には様々なご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>それでは、まず中間案につきまして事務局からご説明願います。</p>
事務局 (佐野課長)	<p>それでは、中間案につきましてご説明させていただきます。</p> <p>お手元にごございます中間案資料1と概要資料3の方をご覧ください。おめくりいただきまして、概要中間案とも1ページになります。</p> <p>第1章基本的事項でございます。</p> <p>1. 計画の趣旨ですが、食は健康で充実した生活の基盤である事だけではなく、食育基本法による食育の考え方として、食育は生きる上での基本であり、知育徳育及び体育の基礎となるべきもの、豊かな人間形成を目指すとともに、社会全体で連携・協働して持続可能な食糧システムを構築することを記載しております。</p> <p>2. 計画の位置付けとしては、食育基本法に基づく市町村食育推進計画として策定するものでございます。また、いわゆる六次産業化・地産地消法上の促進計画も兼ねております。仙台市基本計画を上位計画とし、仙台市いきいき市民健康プランなどの関連計画等々、連携を図って参ります。</p> <p>3. 計画期間につきましては、令和6年度から令和12年度までの7年間となります。</p> <p>概要2ページ、中間案は3ページをご覧ください。第2章現状と課題になります。</p> <p>1. 食を取り巻く本市の現状について、将来人口推計では令和10年をピークに減少に転じることになりますが、一方高齢化率は上昇し続けます。世帯数は増加傾向にありますが、1世帯当たり人員は減少して参ります。</p> <p>2. 第2期計画の評価と課題として、現計画の推進の柱ごとの取り組み実績と指</p>

標の達成状況について、最終評価を行い、結果を踏まえ課題を整理しました。挙げられる課題としては、朝食を毎日食べる人は増加せず、特に若い世代の朝食摂取率が低い、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人が減少、郷土料理等を食べない人の割合は若い世代ほど高いなどが挙げられます。その他、給食における地産地消の状況や食品ロス削減、食の安全性確保の視点を持つことを記載しております。

最終評価から第3期計画における推進体制と新たな視点としてまとめました。市民一人ひとりが、自ら食育に取り組むことを基本とし、地域、学校、職場等の暮らしの場や、保育、教育関係者、保健、医療従事者、生産関係者、食品事業者、市民活動団体など、食に関わる様々な機関がそれぞれの強みを生かし、連携協働し取り組むことが必要です。また、今の時代に合った手法として、デジタル化の視点やSDGsとしての視点を捉えることとしております。

概要版3ページ、中間案は9ページをご覧ください。第3章は計画の目標と推進方針となります。コンセプトは「未来へつなげる食育」といたしました。健康に配慮した食生活は未来の自分の健康づくり、食文化や環境を大切にしたい食生活は、持続可能な社会づくりに大きく貢献します。また、未来を担う子どもたちは大人の生活習慣や生活スタイルを学習し、成長していくため、現在の私たちの食生活は、次世代にも大きく影響を与えます。自らの毎日の食生活を大切にすることが、自分自身のため、そして未来の子どもたちや社会のためにも重要であることから「未来へつなげる食育」を第3期計画のコンセプトとしました。

基本目標が、「市民一人ひとりが、食について多様な視点で関心を持ちながら、毎日の食事を味わい楽しむことを通して、よりよい未来を次世代へつなげます」といたしました。食は生きるために必要不可欠なものであることに加え、私たちに幸福感や喜び、楽しみの感情をもたらしてくれるものであり、それらの感情は、生きる活力になることに加え、生活習慣の改善・継続を後押ししてくれるものであること。食への多様な関心を持ち、毎日の食事を味わい楽しむことを通して、私たちは自らの食習慣をより良くし持続することができます。これを市民一人ひとりが実践することで、よりよい未来を次世代につなげていくことを目指します。

次に推進方針ですが、基本目標に係る推進の方針として3つ掲げております。

1つ目は、多様なライフスタイルに対応した、生涯にわたる切れ目のない食育の推進です。単身世帯や外国人住民の増加など、社会の変化により多様なライフスタイルに対応した取り組みや、生まれる前の胎児期から高齢期までの生涯にわたる切れ目のない食育を推進して参ります。

2つ目が、食育推進ロゴマークの活用をはじめとする、関係機関・関係部局におけるより一体的な取り組みです。自宅・家庭内はもとより、保育所・学校や職場、そして身近な地域など、食育に関する様々なプレーヤーが主体となって取り組むことが大切です。食育推進のロゴマークを活用するなど、関係者同士の繋がりを大切に一体的に取り組めます。

3つ目は、「新たな日常」やデジタル化など、時代に対応した食育の推進です。新型コロナウイルス感染症の流行等で生活様式が変化し、オンラインの活用は必要不可欠なものとなっており、時代に応じた取り組みが重要です。また、食育推進の取り組みは、SDGsの観点からも寄与するとされており次世代を意識した食育推進を検討して参ります。

概要版4ページ、中間案は11ページをご覧ください。第4章、計画の目指す姿でございます。

1. 目指す姿ですが、第2期計画の最終評価を踏まえ、第3期計画の推進の柱として、3つの推進の柱を定めるとともに、それぞれの柱に沿った取り組みを実行することにより、「目指す姿(アウトカム)」の実現を図ります。

推進の柱1が「食を通じた心身の健康づくりを推進します」といたしました。食を通じた心身の健康づくりの実践は、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸に寄与するほか、子どもたちの健やかな成長のために非常に重要です。また、健全な食生活を確立することで、生涯にわたり健全な心身を培い豊かな人間性を育て

	<p>いく基礎となります。推進の柱1による目指す姿を「食を通した心身の健康づくりができる」としております。より具体的な姿を「朝食を毎日食べている」「栄養バランスのよい食事をしている」「健康な歯と口を維持し食事ができている」「安全な食生活について知識を持ち自ら判断している」としてしております。「その他全体に係ること」は、各推進の柱全体に共通することとして設けております。</p> <p>概要版5ページをご覧ください。推進の柱2では「食文化の理解を深め、次世代へ伝える取り組みを推進します」としました。我が国の豊かで多様な食文化は、世界に誇ることができるものです。それらを保護・継承していくことは、私たちの食生活の文化的な豊かさを将来にわたって支える上で重要です。</p> <p>推進の柱2による目指す姿の「食文化を理解し、次世代へ伝えられる」としました。「地元食材や郷土料理を食事に活用している」「和食文化について理解し食べる習慣がある」「その他」を具体的な姿としました。</p> <p>概要版6ページ、中間案は12ページをご覧ください。推進の柱3では「環境保全・脱炭素を意識した食生活を推進します」としました。食の生産から加工・輸送及び消費や廃棄に至るまでの過程においては、CO2の排出、農薬、化学肥料の使用、食品廃棄物などによる環境負荷が生じています。私たちの毎日の生活に欠かすことができない、一人ひとりの食の選択が環境負荷軽減に繋がります。推進の柱3による目指す姿を「食行動を通して環境負荷を減らすことができる」としました。「地元食材や旬の食材を積極的に利用している」「食品ロスの削減に取り組んでいる」「環境負荷の小さい食品について知っている」「その他」を具体的な姿としました。</p> <p>右側のさらに具体的な姿については説明を割愛させていただきます。</p> <p>概要版7ページ、中間案13ページをご覧ください。目指す姿に関連する目標値を定めております。</p> <p>各推進の柱に合わせた指標を16項目設定しておりますが、概要版には新たに設定した目標値を抜粋しております。国の計画を参考に、関係局と協議の上、設定いたしました。</p> <p>第5章につきましては、概要版では割愛しておりますが、目指す姿の実現に向けた取り組みとして、ライフステージごとの特徴や、食育推進関係者のそれぞれに期待される役割、具体的な取り組みとして、食育推進関係機関ごとに各推進の柱で整理した内容を記載しております。家庭の取り組みなど、精査中のもございまして検討中というところでございます。</p> <p>概要版8ページ、中間案27ページをご覧ください。第6章、計画の推進体制については、食育推進会議構成団体の皆様と行政による推進と進捗管理を記載しております。</p> <p>私からの説明は以上になります。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の皆様からご意見ご質問をいただきたいと存じます。特に第4章以降は、今回初めてお示しする内容となりますので様々なご意見をいただければと思います。</p> <p>席順で小野委員からお願いいたします。</p>
小野委員	<p>保育所連合会役員をやっております小野と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>私は、保育園の園長をしております。毎日、お当番に来たお子さんに朝ごはんを食べてきたか聞くのですけれども、朝ごはんを食べていなかったお子さんが、聞かれるから食べなくちゃいけないという意識を持ってくれるようにはなりました。ただ、食べてこなかったというお子さんもいたり、お茶だけとか水だけというお子さんもいます。保育園は夜7時15分まで開いていて、夜遅く帰ってきてそこからご飯の用意をするのは、大変だということはこちらもわかるのですが、せめてお子さんの生活リズムは気にしていただきたいなというところで、懇談会の時などお話をいただいております。</p> <p>あと郷土料理とか行事食になると、全くもって子どもたちの食が進まなくなるんですね。やはり普段食べていないということがあると思うのですが、郷土料理</p>

	<p>は大事なので、こども園や保育園で取り入れて家庭に知らせてはいるんですけども、園で食べるからいいやということで終わってしまっているかなとは思いますが。ご家庭でも取り入れてほしいので、私たちも工夫しながらもう少し伝えていきたいなと思っております。</p> <p>それと今、子どもたちの咀嚼が少し衰えているかなというふうに思っています。子どもたちも保育士も、ちょっと硬いものが出ると「今日硬かったからあんまり進まなかったです」となってしまうので、もう少しよく噛むということ子どもたちにきちんと知らせるように伝えてはいますが、私たち保育園も、もうひと工夫、積極的に食育について取り入れていけたらいいなというふうに思っていました。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、小山田委員お願いいたします。</p>
小山田委員	<p>私たちは、みやぎ・環境とくらし・ネットワークという環境団体ですが、今回第3章の基本目標のところ、「市民一人ひとりが」ということで、このキーワードが非常に大切だと感じております。私たちの団体の設立趣旨とも非常に親和性が高いと感じていて、第4章では、推進の柱の3に、「環境保全に繋がる」「脱炭素」ということを、非常に重要な位置づけとして置いていただいているんだというのを感じました。</p> <p>関係団体の一つということで、まずはロゴの周知ですとか、食育という言葉 皆さんに知っていただくということ、私たちもできるのではないかと感じています。環境に関心がある方たちは、食に対しても非常に関心が高く、産地にも非常に関心が高い方が多いですので、その普及啓発や体験の場づくりということで、仙台市さんとも何か一緒にできたらいいと感じました。その具体的な取り組みを、職員の皆さんにご相談できればと思っております。</p> <p>食育のロゴに関してですが、私たちの情報紙を発送している会員さんが450人ぐらいいらっしゃいますので、そこにも地道に発信していきたいと思っていて、健康政策課さんが作成しているロゴマークが載っているSNSの周知カードをお送りするというのを今年度は行いました。次年度も一緒に何かできたらよいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、片倉委員お願いします。</p>
片倉委員	<p>宮城県栄養士会の会長しております片倉と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>まずこの計画について質問が2点ほどありますので、それについてお話ししたいと思います。</p> <p>1点目は、計画期間が7年になっていますが、どうしてここまで延ばしているのかということです。私も食育推進計画を作ったのですが、7年もたつと食というのはすごく変わるんですね。それを比較して、果たして良いものかという疑問をずっと抱いております。普通はせいぜい5年なんですよ。3年が普通で、延ばしても5年だと思います。7年に延ばしたという理由について教えてください。</p> <p>もう1点ですが、21ページです。家庭の取り組みということで、膨大な取り組みが書かれています。今、若いお母さん方はお勤めをして忙しくて、様々な問題に取り組んで一生懸命生活している中で、家庭の取り組みということで、このぐらい膨大な取り組みを期待されても果たして、できるのかなあと感じます。もう少しスリム化して、やれるものを1つの項目に2つか3つぐらいずつやっていただくと効果が見えるのではないのかなということを感じました。その辺の内容について、説明をいただければと思います。</p> <p>もう1点ですが、宮城県栄養士会が、宮城県から食育の講話の授業してくれということで委託を受けて、今年、気仙沼の小学校と大崎の小学校が手を挙げてくれまして、その2校で食育の授業をすることになった時のこととお話しさせてください。たまたま私が登米市出身で、気仙沼も大崎も近くなので、私が授業をすることになりました。1つの学校の先生に、「食育の話をパワーポイントを使</p>

	<p>って30分くらいお話しします。残り20分くらいは媒体を使ってまとめてもいいですか。」と言ったら、「うちの児童には体験をさせてください。朝昼晩のメニューを書かせてください。」って言うてくれたんです。「5・6年生で書けますか。」と言ったら、「私そのように教えていますので書けます。」と言われました。そっか、書いてもらえれば子どもたちの食の姿が見えると思って、すごく喜んで行きました。そして、今度は別の小学校に行きました。同じことをお話しして、「もしよろしければ、献立を書いていただくとありがたい。」と言ったら、その先生には「そんな難しいこと、何を言っているんですか。そんな暇ありません。講話だけ授業だけでいいです。」と言われて、50分間授業して帰ってきたんです。たった2校でさえも食育に関しての先生たちの受け取り方、授業で子どもたちに話す内容が全く違うというのを感じてきました。</p> <p>そんなことがあって、小中学生、中学生までいかなくても小学生の基本的な食育という部分では、やはりあらゆる学校において、きちんとした食育のお話をできるような、基本的なベースラインをしっかりといただくと、さらにこの食育推進計画が生きてくるのではないかと思いましたので、お話させていただきました。</p> <p>長くなりまして申し訳ございません。</p>
白川会長	<p>貴重なご意見、質問ありがとうございます。</p> <p>期間につきましては仙台市いきいき市民健康プランとの兼ね合いがあると思うのですが、事務局でご説明いただければと思います。</p>
事務局 (佐野課長)	<p>片倉委員、ご質問ご意見等ありがとうございます。</p> <p>こちらの中間案2ページ目のところに計画期間を記載しておりますけれども、仙台市いきいき市民健康プラン第3期を、今年度、同時に策定中というところで、これまでも調査の段階から、市民の方々に健康調査として実施する際に、食育の指標に関する内容も一緒にアンケートを取らせていただいております。共通する指標もございまして、内容が重なる部分がありますことから、計画期間もいきいき市民健康プランと合わせているという状況になります。それが計画期間のご説明でございます。</p> <p>あとは家庭の取り組みにつきまして、ご意見頂きましてありがとうございます。21ページのところでございますけれども、正直申しまして我々もここはすごく苦慮しているところでございます。食育を推進するにあたって、家庭の取り組みというのは非常に重要であると思っておりますし、先程もお伝えしましたように社会の変化の中で家庭の役割というのも変化していると考えております。</p> <p>その中で、確かにおっしゃるように、色々な事を期待して、あれもこれもというつもりで記載しているわけではないため、やはりいただいたご意見のとおりスリム化して少し具体的に取り組みやすいものをこれからセレクトして参りたいと思っておりますので、もしアイデアやご意見ございましたら、教えていただければ大変助かります。ありがとうございます。</p>
片倉委員	はい、ありがとうございました。
白川会長	ありがとうございました。続きまして、加藤房子委員お願いいたします。
加藤房子委員	<p>宮城県生協連から参りました加藤と申します。</p> <p>まずはじめに、第3期計画を拝見した感想を述べたいと思います。第2期から3期で変わった点の、この第4章のところの推進の柱1、2、3、目指す姿1、2、3っていうのがとてもわかりやすくいいと思いました。</p> <p>ただ、9ページに、コロナを経ての新たな日常や、政府が進めているデジタル化の推進に合わせた、という記述がありますが、推進の柱の中には、そういった新たな日常やデジタル化に対応しているのが明確にわからないと感じました。第3期は第2期とここが違うっていう点を明確にするのであれば、この新たな日常やデジタル化をどのように第3期では活用していくのかということをもうちょっと目指す姿の中にわかるように記載した方がいいのではないかなという感想を持ちました。</p> <p>次に質問ですが、14ページの上のNo.5の【新規】肥満傾向にある子どもの減少のところの、令和11年度の目標値ですが、ここはなぜ数値化していないのかと</p>

	<p>いう理由を教えて欲しいということと、あと同じく 16 ページのNo.14 のところも、令和 11 年度末の目標値が数値化されていないのですが、これはなぜでしょうか。検証する時に、数値化しておかないとわからないのではないかと思ったので、数値化できない理由を教えてくださいました。</p> <p>あと最後に意見なのですが、SDGs の関係で、生協はずっと設立当初からのエシカル消費というのを念頭に置いて、メンバーさんも、環境に配慮しての地産地消といった購買行動するというのが生協の理念であるので、もうちょっと家庭や学校、行政の部分で、エシカル消費を推進するということがわかるようにしていただきたいと思います。</p> <p>あと 2 点ほどあるのですが、気候変動によって大規模災害がしょっちゅう起こるということを踏まえると、この食育計画の中にも、災害時に備えて、生協も取り入れているローリングストックのことや、東日本大震災の時も大変苦労された食物アレルギーをお持ちのお子さんへのアレルギー対応食など、避難所にはそういった対応食はないので、災害時の心得みたいな、そのような点も第 3 期には加えていただきたいというのが意見としてあります。</p> <p>私からは以上です。</p>
白川会長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>質問につきまして数値、目標値について事務局の方でご説明がありましたらお願いいたします。</p>
事務局 (佐野課長)	<p>質問・ご意見ありがとうございます。</p> <p>こちらの目標値につきましては関係局と協議した結果とお伝えしたところでございますが、まず小学 5 年生男子、女子の肥満傾向にある子どもの減少につきましては、教育局のプランに合わせております。そちらの表現が減少ということになっておりましたので、このような表現とさせていただきます。</p> <p>もう 1 つのところのNo.14 学校給食で地場産物を使用する割合の維持向上につきましても同様で、関係局と協議の上決めたものとなっております。ただ、物価が高騰する中で維持するのも現実的には大変であることも伺っております。</p> <p>説明としては以上ですが今日のご意見を踏まえまして、再度教育局の方と相談してみたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
加藤房子委員	<p>私がちょっと懸念したのは、目標値を設けるということは要するに第 3 期計画の進捗状況を検証する時に、減ったのか増えたのかということをも市民にアンケート等をとりながら評価すると思いますが、もしその数値で評価ができないのであれば、私は目標値をあげる必要があるのかなと思います。逆に目標値を作るのが大変なのであれば、この目標値をできる範囲の数値にするとか、せっかく目標値を作るのであれば、その捉え方として、前向きに捉えられるような数値にするとか、工夫できないのかなと思ったのが感想です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>健康日本 21 の目標値でもこういったタイプのものでございまして、減少を目標としていたけれども、実際は減少しなかったとか、そういった評価もあるかと思えます。目標値を「減少」とすると数値よりは漠然としてしまいますが、数値を出しにくい場合もあり、数値ではない目標値の示し方も時々見られます。</p> <p>続きまして、木村委員お願いいたします。</p>
木村委員	<p>私立幼稚園連合会の木村と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>この第 3 期の中間案拝見いたしまして、具体的に 3 つの柱が書かれてあり、昔からよく言われていることがそのままもう当たり前のこととして、きちんと次世代に継承できたらよいという点で、この柱はすごくいいなと思いました。</p> <p>また、デジタル化という言葉、それが具体的に何かというのはありました。何の事を指しているのかということがわかりづらかったという点がありました。ただ、全体的にはすごくわかりやすく、全て重要なことだということが、まずは感想です。</p> <p>幼稚園では、私立幼稚園連合会、それから宮城県私立幼稚園連合会と共同して、若い先生方だけではなく、園長それから教頭とか、主任を対象とした研修会を夏に開いておりますが、若者の食育に関する関心が薄いということをすごく感</p>

	<p>じます。</p> <p>ちょうど明日が来年度の夏の研修を決める日なので、先生たちに食育大事だよねということを用意として述べたいと思いました。</p> <p>まずは先生たちがきちんと知識を持って自分の食事を実践して、そして子どもたちに、保護者を巻き込んで伝えていくことが大事であると感じたので、ぜひそれは実践してみたいと思います。</p> <p>それから先程小野先生からもありましたが、やはり咀嚼ですね。虫歯が多いと咀嚼にも影響があるので、よく噛んで食べるということは、小さいうちから教えなくてはいけないことだということを改めて感じました。うちの幼稚園では去年、ここ数年ではじめて虫歯が多い年でした。</p> <p>「保育所の平均、幼稚園の平均よりすごく多いですよ」と言われてびっくりしました。フッ化物洗口を始めて今年で3年目ですが、宮城野区の歯科衛生士さんから、何人か特定の子が、実は平均値を上げているということを言われました。みんながみんな増えているわけではなく、本当に虫歯のあるお子さんが何人かいました。今年は3歳児の虫歯がゼロだったので、すごく胸をなでおろしています。年中からフッ化物洗口をやっているの、ぜひこの綺麗な歯をずっと持って上がってもらいたいなと思っているところでございます。</p> <p>そしてもう一つ、3歳児の肥満のことがありましたが、それもちょうど昨日、「僕ね、3歳半健診なんだ。だから早く帰るんだよ。」という子が受診の際、肥満を指摘されたようでした。本人もそれはわかかっていて「僕ね、甘いジュースとか我慢するんだ。」と言って、しっかりお母さんやおばあちゃんから話を聞いたようで「お茶とかお水にするね。」と、担任と約束していました。ちょうど今日その話が出たので、仙台市の食育推進計画の目標項目にもあるということを担当にも話したところでした。</p> <p>あとは今まで通り幼稚園連合会としても、各幼稚園の食育推進で、野菜を作ったり、その収穫物をみんなで味わうということ、大体の幼稚園でやっていると思うので続けていきたいと思っています。</p> <p>以上になります。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>デジタル化につきましては、感染症が流行ってない時でも、例えば遠くの生産者の方などと直接画面越しに繋がる機会もあるかと思います。もちろん子ども達が直接土に触れるほうが大事ではありますが、ただ、座学で勉強するよりも、より臨場感があり、離れていながら体験に近いことができるかと思いますので、効果的にデジタル化を活用して食育を推進していけるといいのではないかと考えております。</p> <p>ありがとうございました。続きまして、佐藤委員お願いいたします。</p>
佐藤委員	<p>市民公募で医師合同会社 SUGAR 代表の佐藤と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>前回2回、欠席で参加できず、この場で謝罪させていただければと思います。大変申し訳ありませんでした。</p> <p>今回の第3期中間案の取りまとめ等ありがとうございます。すごくわかりやすくまとめていただきまして、私自身今回、久しぶりの参加でキャッチアップすることができましたこと、皆様のおかげだと思っております。ありがとうございます。</p> <p>その上で、私からの意見を大きく分けて2つ、細かく分けて3つ挙げさせていただければと思います。</p> <p>概要版ですと、2ページ目、中間案の資料1だと3ページ目になるかと思いません。将来人口推計が人口減少2028年をピークに減少し、高齢化率が上がっていくというようなことが述べられている一方で、課題のところでは、これまで皆様からご指摘していただきましたように、若い世代、または学童期の世代の食育というようなところを述べていただいたと思います。</p> <p>ただ、高齢化率が上昇しているというところで、高齢者へのフレイル・ロコモへの対応という視点も1つと勝手ながら考えさせていただきました。また、メタ</p>

	<p>ボというところでも、これから大きな課題なのかなと思いますので、子どもたちへのスキリングというところではなく、大人への食育というアップスキリングというところで、より知識をつけていただくということも1つの課題とっております。</p> <p>僭越ながら、昨日、東北地方、仙台市ではなく恐縮ですけれども、平均年齢48歳ぐらいの大企業様で私もお説明させていただく機会がありました。その時に例えばBMI22の標準体重目指してダイエットするならば、標準体重×25キロカロリー目指して3ヶ月3%、目標に減量するというようなことが現在の肥満ガイドラインで推奨されていることをお伝えすると、結構関心を持って今の体重に向き合っていて、よりよく生きるために、「老いるショック」ではなく、「華麗に加齢」するためには、ということを前向きにポジティブに考える方が多いということもありましたので、そういったことも課題の模索の一つとしてご検討いただけましたらと1つご提案させていただきます。</p> <p>2つ目になります。概要だと5ページ目になるかと思います。推進の柱2のところで、地元食材や郷土料理を食事に活用してというところ、私もまだまだですけれども、こういうふうなオールドファッションといいますか、伝統的な料理、にはすごく関心を持っていますけれども、ただ20代、10代の方々に郷土料理を「どうだ、いいだろう」と言っても、ちょっと理解が進まないのは、すごく私も共感できると思っております。</p> <p>その上で、4ページの外国人住民数の増加を踏まえると、例えばですが、仙台市の姉妹都市、今簡単に調べさせていただくとアメリカ、フランス、ベラルーシ、メキシコ、中国、韓国などそういった仙台市の姉妹都市の伝統料理と、仙台もしくは宮城の食材などを組み合わせたり、もしくは、それぞれの違いなどを見せたりすると、興味関心を引くのかなというふうに思っております。</p> <p>そういったところで、ツールとして、「アイドマ」とかですね、「アイサス」という考え方がありますので、注意を引いて、どうやって興味を持たせて、それで欲しいとか、調べたいとか、それをもってモチベーションとか、食べたいとか、他の人にシェアしたいという行動促進ができるかなと思っておりますので、そういったことをミックスしたりするのも1つなのかなと思っております。それが2つ目のご提案です。</p> <p>3つ目の新しいデジタルというところ、なかなか難しいかなと思っております。私自身も難しいと思いますが、仙台市の公務員の方々に、人材不足でなかなか難しいところ可能ならば、ということですが、例えばX、旧ツイッターやインスタグラムとかで、そういった郷土料理とか、姉妹都市の料理とかの合わせ技とかですね、あとは、伝統料理や郷土料理の魅力とかそういったものを仙台市の公務員の方々に発信できないと言いますか、そういった方が発信するからこそ魅力が伝わる、私なんかでは伝えられないものが、公務員だよっていう人達だからこそ魅力が伝えられるものかなと思います。他の市ですとそういったように伝えていたりもするかなと思います。官民の官じゃなくて恐縮ですが、例えば日清さんとかですとか、そういったところで魅力を伝えてフォローしていったりとか、仙台市の笹かまとか、お魚とかいろいろあると思います。もち豚など。そういったものを使って、こんなおいしいものが食べられるんだとか、そういうふうなものをすると、若い外国の方々のフォローとか、いいねが増えて、興味関心が増えていくのかなと思っておりますので、ご提案とさせていただきます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございます。「華麗に加齢」や「アップスキリング」など魅力的なキーワードがございました。ご説明ありがとうございます。</p>
事務局 (佐野課長)	<p>ご意見に関連しまして先程から皆様からDXというところでご意見いただいておりますのでひとつご紹介ですが、健康政策課では「だてきちせんたい」ということで、フェイスブックとインスタグラムによるレシピの投稿をさせていただいております。今のご意見をいただきましたのでもう少し郷土料理があるといいかと思っております。</p> <p>また、前回の食育推進会議で、片倉委員から米粉を使ったレシピをご紹介して</p>

	<p>いただき、写真の提供などご協力いただきまして、モチモチチーズパンということで米粉を使ったお料理を紹介させていただいたりしております。ぜひ、皆様もフォロー、いいねよろしく願います。</p>
柳津委員	<p>それに関連して、経済局長の柳津と申します。</p> <p>前回出席できなかったんですが、今のに関連してですが、郷土料理というわけではないんですけども、地産地消を進めているところで、こちらの計画も兼ねていますので、事業のご紹介とPRさせていただきたいと思います。確かに若い方々にこういった意識を持ってもらう為に、SNSはかなり有効だと思っていて、私たちもそれを全庁的にやり始めているところです。</p> <p>経済局はどこでやっているかといいますと、11月は地産地消月間という事で、市役所前に「227 カフェ」という東北の食材を扱うレストランがありまして、そこで、仙台産にこだわったメニューを開発し、提供するというのをやろうと思っておりました。</p> <p>それから、「とれたて仙台」ということで、例えば、ちょっと大人向けなのですが、最近は朝採った枝豆を、夜に国分町で食べられるということをやっております。</p> <p>SNSでも「とれたて仙台」のSNSは市役所の中でも多分3本、5本の指に、5本にしときますかね。結構人気が高いところでして、こういうところですね、仙台産の野菜とか食物の情報を発信しています。仙台は農業GDPの中でも0.1%ぐらいなもの、なかなかなくてやはり米と大豆なんです。私も最近知ったんですが、宮城県の大豆生産量は北海道に次いで2番目なんです。そういったものをアピールしていくと、すごいと思って大豆を食べようと思うのではないかと思います。米粉もですね、やっぱりお米がせつかく取れていますので、米粉を使ったレシピを開発して、健康福祉局さんと連携しながら経済局でもそういったツールを使って若い方に接近するようなアピールをしていきたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>仙台市はFacebookも頑張っておりますので、今後さらに広めていっていただきたいと思えます。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、武田委員願います。</p>
武田委員	<p>幸町小学校の武田です。よろしく願います。学校現場の立場から少しお話をいただければと思います。</p> <p>子どもたちの実態や課題に即した計画の目指す姿になっているかなというふうに拝見しました。</p> <p>地元食材の話になっていますが今日の給食がたまたまですね、小松菜と仙台味噌の和え物ということで、うちの学校は高砂給食センターから配送していただいているんですけども、栄養教諭、栄養職員の皆さんには、いろいろ工夫しながら給食を提供していただいているというところで、毎日おいしい給食を食べることができております。</p> <p>課題となっていることとしては、栄養教諭、栄養職員による食育の指導は毎年計画的にすべての学校すべての学年で行っているんですけども、食の大切さという点で子どもたちの理解が十分かと言われるとそうではないところがどうしても出てまいります。具体的には本校の例になってしまいますが、朝食を食べてこない児童の割合が、大体10%から20%ぐらいで推移しておりまして、あまり大きな変化は正直ありません。</p> <p>それからフードロスに関して、食品ロスという形で今回資料には紹介されておりましたが、やはりかなりの残量が給食に関して出るというところで、何とかしたいと思って取り組んでいるところですが、これに関して、解決に繋がる方策はまだ見つかっていないというのが現状でして、特に和食メニューの日の残食が多い。これは家庭でもあまり和食が提供されないことも関連しているのかなというところで、家庭と連携という点が学校としては非常に課題になっているというところなんです。</p> <p>そこから合わせて今回の食育推進計画に関して、全市的な取り組みとして進</p>

	<p>めていく上で、どのような方策があるのかをさらに検討していただければ、よりよい形になっていくのかなと思いました。</p> <p>よろしく願いいたします。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>子どもたちは、食べ慣れないものはなかなか食べにくいところがあるので、できるだけ家庭でも和食が食べられるようになるといいと思いますが、親が作らない・作れないなど現実的に難しいところもあるかと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、二階堂委員お願いいたします。</p>
二階堂委員	<p>仙台市 PTA 協議会の二階堂と申します。よろしく願いいたします。私どもは皆さんのような専門家でもありません。普通の主婦であって、保護者であり、PTA の代表としてこの場にお邪魔させていただきました。</p> <p>私、家庭の都合上、父子家庭という形で子ども 2 人を育てております。そういう面からも、いろいろなことを踏まえてこの書類を拝見させていただきました。まずやっぱりキーワードとして、基本目標、これ素晴らしいなと思いました。食は楽しくて、笑顔じゃないと、美味しくない。これはやはり、昔からですね、改めてそうだな。私も生活がてら、「忙しい」という言葉を使うのはずるいですけれども、「ながら」で作ったり、提供したり、子どもが食べているときにいろんなことやったりしながら食卓を囲むので、日々子どもが大きくなるにつれてこういうことが減ってきているので、ここはちょっと私自身も反省していきたいと思っております。</p> <p>先程、武田校長先生もおっしゃいましたが、私も PTA 会長という立場で、子どもと一緒に給食を食べる機会が何度かありました。私の小さかったころは、配膳っていうのは、大きなご飯をちっちゃい器に分けていたんですけれども、今は 1 個 1 個来るので、自分で自分の量って選べないんです。そのため、自分の体格に関係なく一定量与えられて、食べきれなかったら捨てる。皆さんの子どもの頃はどうかかわかりませんが、そうなんだってちょっとびっくりしたんです。時間がないとか配膳の手間などを考えると、致し方ないのかなというところも考えるんですけども。</p> <p>また、昔は先生方も食べなさいとか、私も給食を泣きながら食べている小学生を見ていました。今はないと思いますが、そういうこともできない世の中であるので、非常に先生方の学校での教育にも限界があるのかなというところも感じております。</p> <p>あと、芋煮会とかですね。食のイベントは自分が小さい頃は行われていたんですが、昔の和歌山カレー事件から、徐々に減ってきています。学校で保護者と食事を作るということも減っています。私の記憶からすると、9 年間小学校に行きましたが一度もやったことがありません。</p> <p>社会的なところ、時代と言っているのか、言ってしまうと、その一言ですが、非常に窮屈な世の中になってきているのかなと保護者として感じているところでございます。</p> <p>この目標や計画は素晴らしいことが書いてありますが、ただ、実践する私から見ると、本音と建前でいうと本音的にはこんなにいっぱいできるかなと感じています。</p> <p>確かに私もこういった体型なのでメタボリックシンドロームということで、この間の健康診断の結果が戻ってきて考えなきゃいけないという立場でいて、わかっています。わかってはいるけど、できないという状況です。それはもう自分の意識や決意が低いうて言ってしまうと、本当にそれだけですけれども、やっぱりもう少し楽しくできる何かがあるとよいと思ったりします。</p> <p>また、消費者の立場からすると、地元食材、県産の食材は高いですね。郷土料理って、私宮城県出身ではないので調べてみました。有名なはらこ飯など、どれも高いなと感じます。これが正直なところ。もう少し普及活動ですね、消費者からすると安く買える方法ないのかなというのは、この場で言う意見ではないかもしれませんが、少し感じる場所がございました。</p>

	<p>メディア戦略もそうですが、例えばコンビニで扱う商品をテレビで放映すると、次の日にその商品がなくなるとか、バナナマンが来てどこかの店に行くと、その日行列ができるとか。このように発信をする方がすごく重要ではないかと思えます。そういう方々とコラボしてもまた面白いんじゃないかと。ユーチューバーなどもありますので、もう少しそういうところに目を向けてもいいのかなと感じるところでございました。</p> <p>ほとんど感想になってしまいましたが、以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>子どもに対する食育は、楽しいということもとても大切なことだと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、大和委員お願いいたします。</p>
大和委員	<p>仙台市医師会の大和でございます。</p> <p>食育推進計画の中間案を拝見させていただきまして、非常に素晴らしいなと思って見ておりました。</p> <p>私たち、医師方が見るのは、病気になられてくるということで、やはり若い頃からの食育というのが非常に大事であると感じていますのと、食育という言葉自体がなかなかまだそれほど認知されていないのかなということで、私もてっきり食育となると、子どもたちの食生活の教育みたいな感じでイメージしていましたが、そうではなくてすべての年齢において、大事なことであると理解しました。私は、糖尿病専門ですけれども、若くて糖尿病になった方なんかだと、結構食に興味がないとおっしゃいます。20歳の方とか食べられればよいというような感じで、食べることに興味がないなど、そういった方達がちょっとずつ増えているような印象があります。小学校・中学校は先生たちがいろいろやってくれますが、高校・大学は、勝手な嗜好・食生活になってしまい、朝も多分、適当でしょうし、友達と食べるのもスナック菓子やファストフードというような環境ですので、そこに対してもしっかりと食育の教育が入っていくことが大事なのかなと思えます。</p> <p>特に大学生なんかは、和食もおいしいと感じてくるような世代に入ってくると思えますので、そこをやはり SNS とか使ってしっかり教育していかないと、その世代が今度親になった時に、家庭でそういった和食などが出てこないということになるので、ぜひ高校生・大学生にも食育の大切さというのを、しっかり啓発していくということが大事なのかなと思っております。</p> <p>経済的な問題は非常に大きくて、私は高齢者を結構診ておりますが、野菜が高くて買えないというような高齢の方も結構おられますし、1日2食しか食べない方もいます。そういった経済状況がよくなれば変わってくるのかなとは感じております。</p> <p>子どもたちの給食に関しては、テレビでの情報ですが、食費が高騰しているのので、栄養士さんが本当に苦勞して献立を立てているということを見ています。お金の問題は難しいと思いますが、郷土料理なども非常にお金がかかってくると思うので、そういったところに補助が入るなど、子どもたちに、おいしいもの、手の込んだものが提供できるように少し予算なんか増えたらいいのかなと思っております。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>確かに食に興味のない若い世代は増えてきていますが、子ども時代に、楽しく美味しく食べる経験が少ないとそのような若者に育ってしまう可能性もありまして、子どもの時から食の大切さが伝わるような食育をおこない、かつ、大人になっても、食育を継続していくことが大切なのではないかと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、平田委員お願いいたします。</p>
平田委員	<p>仙台歯科医師会常務理事の平田です。</p> <p>仙台「だてきち」良くなりましたね。前の会議の時に、いまいちという意見を言わせていただいていたのですが、すごく良くなっていると思えました。特に米粉</p>

のメニューは良かったです。専門的な立場の意見が入っていて読みごたえがありました。せっかくこのような会議があるので、「だてきち」ももっと専門職と一緒にできたらよいと思います。歯と口の視点から、食材を切る時の大きさだったり、煮るときの固さについてアプローチができるし、そこに例えば栄養士会からの意見とか、歯科医師会からの意見などオーソライズされたものがあると、箔がつくのかなと思います。

ただフォロワー数少ないのでフォロワー数をもう少し増やしていくとすごくいいデジタルでの取り組みになると思います。

Facebook だけではなくインスタも低いですね。もうちょっと増えないかと日々見っていますが、何か抜本的なことがあるといいのかなというふうに思ったところでは。

質問は、私も7年間というのは何でこんなに長いのだろうと思っていました。中間で3年か5年あたりに1回評価しないのかなと思っていたところですが、理由はわかりました。理由はわかりましたが、このまますすめていいのかなとは思っています。いきいき市民健康プランの場合は12年でそこから後期計画になるけれども、食育の場合は次の計画に変わるということで、途中で評価するという過程がなくて、次の計画になってよいのかなとは思っています。

計画の6ページの郷土料理を全く食べない人の割合で20代が高いことについては、学都仙台ということもあり、県外、場合によっては関西とか、関東などから来ている学生さんも含まれているのかと思います。そうなる郷土料理を食べない人が多いというのも理解できます。住民票を移さない大学生も多いので、もしかしたらそうではないのかもしれませんが。

ただ確かに20歳の子たちは郷土料理よりはマックの方を好む人も多いと思うので、1つ提案ですが、飲食店とコラボできないでしょうか。

例えば、好評だった「仙台まちいこ」のようなものから郷土料理を紹介して、郷土料理を食べさせてもらえる飲食店に行ったらポイントがつくというような取り組みをすると、若者たちは結構興味を持つのではないかと思います。

コンビニとかそういうところにも郷土料理を置いて、それに対して仙台市がお墨付きを出し、それを買えばポイントがつくというようなことになると、結構進むのではないかと思います。そして、そういった商品に食育のロゴマークをつける。そうなるロゴマークの普及も進むから、一石二鳥か三鳥わかりませんが、よい方向に進むのではないかと思いますので、提案です。

あと、14ページの肥満傾向にある子どもの減少というところに目標値がない点についてです。もしかしたら教育の方で、コロナで虫歯や歯肉炎も増え、いろいろなものが悪くなったので、コロナ前に戻そうという意識が働いて減少になっているのかと推測しています。具体の目標値がないと駄目だと思うのはその通りだと思いますが、この減少が目標値というのは、もしかしたらコロナ前の値に戻そうというふうな働き、考え方でいるのかもしれませんが。勝手な推測でございます。

あといくつかよろしいでしょうか。

確か、第3期の国の食育推進基本計画から栄養教諭という言葉が入ってきたと思います。栄養教諭の先生方も忙しい中いろいろやっていただいている、学校における食育に関してはキーになる人でもあると思います。多分、我々学校歯科医との連携もできるような気がします。この食育推進計画の中に栄養教諭という言葉が1つしか使っていないのです。確か、18ページの学齢期のところにだけ栄養教諭という言葉が出てくるだけであとは全く出てきません。国の方でも考えて設置されているのに、ここにしか出てこなくて、それでいいのかなと思ったところが1つありました。

あとは小野委員と木村委員からも話が出ましたが、ファミレスとかに行くと、綺麗なメニューを見たときに、「ああ、おいしいものいっぱいある。どれ食べようかな」というふうに、どれでも選択できるうちはいいのですが、「どれ食べられるかな」というように、選択できるものが限られてしまうケースもあるんですね。それは子どもの頃もそうだし大人になってもそうなんです。何を言いたいか

	<p>という、計画の中に「口の機能に応じた食の選択」と書いていますが、それをちょっと一歩進めていただいて、子どもの口腔機能について、例えば何歳までにこういうことやった方がいいよというようなことを啓発していけるとよいと思います。</p> <p>専門職を上手に活用して、どれぐらいの時にこういうことをやらなくてはいけない、というようなアプローチができれば、食べられない子どもや食べにくそうにしている子ども、飲みにくそうにしている子ども、何でもかんでも流し飲みしている子どもとかが少しでも少なくなればよいと思います。多分ここでうまく機能を上げていかないと、確実にそのあとのフレイルに繋がります。そのの部分について何とか具体的な方策というのを入れ込んでいただけるとありがたいかなと思います。</p> <p>それと併せて口腔機能の低下に繋がる部分が、先ほど「老いるショック」という言葉もありましたが、それに繋がらないような、何とか低下を抑えるように、地域での取り組み、おそらく介護予防の分野と連携する必要があると思いますが、その部分をやっていただきたいと考えますが、オーラルフレイルって言葉が一言もありません。なぜオーラルフレイルということが入っていないのかという疑問がありました。</p> <p>もう1つ、家庭の部分になりますが、家庭の関わりはものすごく大きくて、実は私も父子家庭でその中でもがんばりながら子育てをしてきました。今は大学生でもうすぐ卒業するのですが、1日1回は一緒に食事をしようと、なんでもいいから一緒に食事をしようということをやっていたことが心掛けていました。それがどういうふうになっているかということ、これからの彼女たちの子育ての中で、どういう風にしていくかということに関わって来ると考えています。</p> <p>ただ、ちょっと家庭にかける負荷が多いのかなという気がします。メインになるのは家庭なのかもしれないのですが、それぞれの項目で連携がとれると思うので、ここはここと連携した取り組みというようなことがわかるようにして、「こんなにできるわけない」となってしまうような計画づくりをお願いしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>非常に重要なメッセージ、アドバイスをたくさんいただきましてありがとうございます。</p> <p>事務局からよろしいですか。</p>
事務局 (小椋部長)	<p>保健衛生部長の小椋でございます。</p> <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>他の委員の皆様からいただいたものも含めて何点かお話をさせていただいたと思います。</p> <p>まず佐藤委員からもお話があった高齢者を意識した中身というところについて、確かにオーラルフレイルという観点も含めて、少し記載が不十分だったかなというふうに私も捉えさせていただきました。</p> <p>ライフステージごとの特徴と取り組みについて本編で言うと18ページにまとめさせていただいて、ここに高齢期を入れておりますが、冒頭の高齢化率が上がるという話の流れから見ても、もう少し具体的な取組が必要だというふうに認識いたしましたので、それにつきましては検討したいと思います。</p> <p>それから、計画期間の点について、皆様もご承知のことと思いますが、国の農水省の第4次食育推進基本計画は、令和3年度からの5年間となっております。これもお話を伺いながら思いましたが、他の政令市では、国のスパンに合わせて計画を策定しているところもあります。</p> <p>ただ私どもは課長からもご説明したとおり、いきいき市民健康プラン、もっと言うと国の健康日本21の方に合わせるという判断をしております。ただ国の食育の計画が令和7年度で終わって、おそらく次の計画に移ることになると思いますので、そこで仮に何か大きな動きがあれば、私どもの食育の第3期の計画も、例えば改定を行うというような対応も必要になるかもしれないと思いましたが、そこはまたこの会議でお諮りをしながら検討させていただきたいと思いま</p>

	<p>す。 以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。 それでは、神田委員お願いいたします。</p>
神田委員	<p>仙台白百合女子大学の神田です。 今日は午後からの授業がございまして遅れてきましたことこの場をお借りしてお詫び申し上げます。 委員の皆さんから、私が思うようなことはすべて出て、本当に勉強になったところです。 私の感想といいますか、今年になってから、保育所ですとか小学校で給食を出している卒業生がよくやってくるようになりました。「本当に食材が高くて、バランスとかそういうことを言っていられない。毎食、出すだけで精一杯で、もやしのかさ増しではもう追いつかないので、何か安い大量調理を教えてください」という声を多く耳にします。 今までは、食育のこととか、子どもたちにどうアプローチしたらいいかという質問が多かったのですが、今はそういった話ばかりなので、この14番の指標の目標値となる「維持」が精いっぱいだと思いますし、何か私の方からご提案できる方策があるとよいのですが、今はないので、心のどこかにとめていただければと思います。 それと、私の家庭のことで恐縮ですが、小学生になる息子が1人おりまして、給食で育てられました。これは栄養という意味ではなくて、保育所の時には、けんかをして仲直りをするのは給食、これおいしいねそうだねと言って仲直りしたり、本当に給食に育てていただきました。小学校でも毎日帰ってきてお話するのは「今日の給食がこうだった」「僕はおかわりしたけど、何とか君は何だかを残した」というような給食の話が多く、本当にそれが親子の繋がりになっていたり、心も育ててくださっているんだなあと感じています。食育推進のこういうことがあってこそ、本当に育てていただいたんだなと思って感謝の気持ちでいっぱいです。 あとは木村委員がおっしゃられていましたように、私も保育所の先生に研修をすることが多々ありますが、本当に勉強熱心で、私も頭が下がるばかりです。多分子どもが好きだから、専門外のことでも一生懸命学ぼうとしていらっしゃるのだと感じています。 例えば、食育推進計画ですとか、そういうちょっと難しいことでもぜひ教えてくださいと言われます。それで、「これに繋がっている意味がわかって良かった」という反応をいただきますので、そういう場面がたくさんあるとよいと思いました。 以上です。</p>
白川委員	<p>ご意見ありがとうございました。 学校給食は食育の生きた教材と言われておりまして、給食の食育における意義というのは非常に重要なところでございます。最近、給食の時間が非常に短くてゆっくり食事ができないとか、先ほど二階堂委員からお話がありましたけれども、一人一人にすでに分けられていると、量が調整できず小食で食べるのが遅い子どもにとっては負担になる可能性もあり、給食がもっと楽しく自由に食べられるような状況になるとよいのではと感じております。 では、一巡しましたので、本日ご欠席の古林委員のご意見をご紹介していただきたいと思っております。 よろしくお願いいたします。</p>
事務局 (佐野課長)	<p>古林委員のご意見預かっておりましたのでご紹介させていただきます。 中間案を読ませていただいて、コンセプト、基本目標は本当に今大事なことだと思えました。 今やらなければ未来がどうなるかというと、あまりにも世の中の変化が著しい今なので、今の状況に合わせた方向で、未来の選択のコンセプト、目標はいいと思えました。</p>

	<p>7ページの農林水産業の経営体数も、この10年でかなり減っているデータをみて経営体系が変わってきているのもあるのでしょうかけれども、やはり第一次産業の食材を生産する方々、食品を作る方々があつての食なので、そちらが元気になること、支えることは大事であると改めて思いました。</p> <p>子どもへの取り組みは、食は1日3回、毎日、その中で給食は土日、長期休みは別としても、必ず1回食べるという意味ではそれだけ多くのチャンスがあるということになると思います。</p> <p>栄養、郷土料理、地産地消など、様々な角度からのアプローチを子どもの記憶に残るように、給食というチャンスを生かして進めていただきたいと思います。その記憶が将来に繋がると思います。またその子どもの親世代は忙しい時期ですが、子どもと高齢者が元気だといふ影響を受けると思います。</p> <p>目標値については新たな項目が入り、口腔機能に関すること、食環境整備事業登録店舗数、保育所の取り組みなど、目標のための適格な項目だと思いました。</p> <p>いよいよ新しい計画が始まるのだなと、私自身も身の締まる思いをいたしました。</p> <p>古林委員からは以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>時間が押しているところではございますが、私からも一言だけ述べさせていただきます。</p> <p>中間案の概要の7ページのところに、新たに設定された目標値が載っていますが、第3期の中間案は第2期の計画の評価から見えてきた課題を踏まえて、推進の柱、目指す姿に応じて、新規の目標が多く掲げられております。その一部として、幼児期からの肥満や虫歯の予防など、望ましい食生活習慣を早い時期から身につけて定着させることで、仙台市で高い割合のメタボや肥満を防いで、生活習慣病の予防につなげて、また、50歳以上の咀嚼機能について咀嚼良好な人の増加という目標値がございますけれども、健康な歯と口を維持することで、オーラルフレイルの予防については健康寿命の延伸にも繋がると考えられます。</p> <p>また環境に配慮した食材選択に関わる目標もございまして、環境負荷低減に向けた望ましい目標値であると思います。</p> <p>その他、皆様からご意見、ご質問等ございますでしょうか。</p>
二階堂委員	<p>1点ですね、ちょっと宣伝をさせていただきたいと思います。</p> <p>11月12日日曜日、勾当台公園にて仙台市PTAフェスティバルというイベントが開催されます。今年は仙台市の社会化実験と共同開催ということで大々的に開催いたします。仙台市の子どもたち多く集まります。ぜひとも、今回の食育に関することも、もしかしたら生涯学習課さんと調整すればそういう場を作ることができると思いますので、ご活用いただければと思いますし、ホームページの方で、ポスター等ダウンロードができますのでご協力いただいて掲示できる場があれば掲示していただければ、また印刷できなければ、私の方から発送するように指示しますので、声かけていただければと思います。</p> <p>ぜひ多くのお客様に参加していただいて、子どもたちのために大人が本気でやっている姿を見せたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。ありがとうございます。</p>
白川会長	<p>皆様よろしく願いいたします。</p> <p>それでは皆様からですね、中間案などにつきまして貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>第3期中間案は、市民が食に関する多様な視点で関心を持ち、実践につなげることができる具体的な推進の取り組みが挙げられており、大変参考になります。</p> <p>21ページの「家庭の取り組み」はいろいろとご意見があるようではございますが、この取り組みの内容は、必ずこのようにしなければいけないということではなく、生活が多様化している中で、それぞれ実践できることが一人ひとり違うと思われるので、この中で自分なら、どれが実践できそうかを考えながら、参考にさせていただきたいと思います。必ずおこなうという捉え方で伝わらないように配慮しながら、自分ができるところから取り組みを実践していくための、ヒントと</p>

	<p>して参考にしていただけるといいのではないかと、個人的には思っております。具体的なところは、今後、事務局でさらに精査していただくことになると思います</p> <p>このように具体的な取り組みも挙げられておりまして、非常に参考になる資料でございます。</p> <p>皆様からのご意見も踏まえて、この後も資料をつぶさに見ていただきまして、実際の計画は次年度からになりますが、未来につなげる食育の推進に向けて、ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。</p> <p>なお本日いただいたご意見をもとに、中間案として、市民の皆様から広くご意見をお寄せいただくという運びになります。</p> <p>それでは今後のスケジュールにつきまして、事務局からご説明いたします。</p>
事務局 (佐野課長)	<p>計画策定の手順についてご説明いたします。</p> <p>資料2・仙台市食育推進計画第3期策定に係るスケジュールをご覧ください。</p> <p>本日の会議で中間案をお示し、皆様からいただいたご意見を可能な限り反映させた上で、11月下旬から12月下旬までにパブリックコメントを実施いたします。</p> <p>その後、市民の皆様からいただいたご意見を踏まえ、最終案を作成いたします。年明けに、パブリックコメントを反映させた中間案の最終案に至るまでのものを、一度お送りいたしまして、1月下旬の第3回の食育推進会議でご検討いただければというふうに考えております。</p> <p>スケジュールにつきましては以上です。</p>
白川会長	<p>スケジュールについてのご説明ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の(2)その他ですが、委員の皆様あるいは事務局から何かございますでしょうか。</p> <p>お願いいたします。</p>
佐藤委員	<p>先程の意見の続きで、ごめんなさい。</p> <p>時間も押して申し訳ありませんが、SNSやそういったところで、ティックトックとかも流行っていると思います。若者のところで、今この食育せんだいのロゴマーク、すごくかわいらしくていいと思うんですが、万人受けするが故にちょっと印象が薄いなところがある、私の思うところでもありまして、何かこうワンファミリーっていいですか、地産地消の食材で、例えばですが、コンセプトをまねるというのも結構、力だと思っております。完全に模倣するのは駄目だと思いますが、だんご3兄弟とか真似て、ずんだ3姉妹とか、「ずんだ3姉妹〜」みたいな感じで、そのような感じとか、あと最近私「おワンワン〜」がすごい頭ん中で、リピートしてしまっていて、そういう風に音を使うと結構小学校とか幼稚園などで、自然に覚えちゃうというようなこともあるので、例えば「ほやほや」とかです、ね、そんな感じで中年のほやのおじさんみたいな感じでサウナあがりとか、お風呂上りのほやのショートムービーなどを作ってもいいのかなと思っておりました。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>楽しいご意見、ありがとうございます。確かに子どもはそのような楽しい音やリズムに反応してくれると思いますので、いいアイデアだと思います。</p> <p>それでは、他にございますか。はい、お願いいたします。</p>
平田委員	<p>すごく、すごくいいご意見だと思っておりました。仙台市内で、例えばデジタル系の専門学校とかあるので、そことうまく連携すれば、喜んで作ってくれるかもしれないですね。</p>
白川会長	<p>佐藤委員や平田委員のアイデアを参考にさせていただいて、フォロワー数を増やしていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>他にございませんでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、以上で議事を終了させていただきます。皆様から様々なご意見をいただき大変ありがとうございました。</p> <p>それでは事務局に進行をお戻しいたします。</p>
進行	<p>委員の皆様、長時間にわたりご議論ありがとうございました。</p> <p>会議のご発言のほかに、ご意見等ございましたら、本日お配りしております別</p>

	<p>紙1・仙台市育推進計画第3期中間案に係る意見シートにて、11月2日木曜日までに事務局あてにご回答いただければと思います。様式は会議終了後Eメールでも送付いたします。</p> <p>次回の会議は、先程事務局で申し上げました通り、令和6年1月下旬頃を予定しております。</p> <p>具体の日程につきましては、今後会長と事務局とで調整させていただき、決定次第委員の皆様にご案内申し上げたいと存じますのでよろしくお願いたします。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第2回仙台市食育推進会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。</p>
--	--

令和 5年 月 日

署名

印